

---

# モンスターハンター 『時を超えし者』 紡がれる伝説

帝月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

モンスターハンター 『時を超えし者』 紡がれる伝説

### 【Nコード】

N9430M

### 【作者名】

帝月

### 【あらすじ】

以前モバで作者が趣味で書いていた作品です

世界はモンハンですが作者の趣味や妄想などを加えているために変なところがあるかもしれませんがどうか優しく見守っててください  
い

『Prologue』(前書き)

かつて

この世界の仕組みは今よりもずっと簡単だった……

-

## 『Prologue』

かつて・・・

この世界は今よりもずっと広く大いなる神秘に満ち溢れていた

うっそうとしげる深緑の森

荒れ果て弱者を拒む灼熱と極寒の二つの顔をもつ砂漠

果ては全ての命を拒む烈火のごとき炎の咆哮を放つ灼熱地獄の火山

3

全てを凍てつかせる恐ろしくも美しい雪山

そして入り込む者全てを惑わす迷宮の如き樹海

そして・・・

遙か古の昔よりそびえ立つ高き古塔そこに住まうは古き時代の守護者かまたは破壊神か・・・

さあ・・・

若き狩人達よ準備は出来たか？

ならばその身に刻め！！

この世界のたった一つのルール（掟）を！！

それは・・・

狩るか！ 狩られるか！

『Prologue』（後書き）

更新が不定期なうえに亀更新ですみません・・・

私なりにモンハンの世界を表現できたらいいなと思っています

-

『しん接拶』(前書き)

物語が

今

始まりを告げる

-

## 『1』挨拶』

?? 「皆様始めまして

私はこの世界を見つめる者です

皆様はこれから私と一緒にこの世界を見つめる傍観者となっていた  
だきます

そしてこれから始まる物語を最後まで見届けて下さる事を願います

そして願わくばこの物語が貴方の心に残り貴方の糧にならん事を願  
います」

この物語は己に架せられた宿命に気付き

仲間と共に笑い 泣き 喜び

時には擦れ違い

それでも前に進む者達を描いた物語です

それではまた後ほど・・・

では・・・

始まり始まり・・・

-

『しん挨拶』（後書き）

未熟な作者ですがこれからも応援よろしくお願いします。

-

『人物紹介 1』(前書き)

少し早いですが人物の紹介になります

-

## 『人物紹介 1』

ゼロ・ソルレオン

武器

主に太刀（ほかは片手剣、大剣、双剣が得意）

HR8 17歳

髪 太腿辺りまで届く白銀の真っ直ぐなロング

瞳 真紅と蒼海のオッドアイ

備考

主人公

やさしい性格だがキレるとラージャンより怖い（スー  
ーサヤ人  
も真っ青）

ちなみにレオヤリオとは幼なじみ

10歳の頃からハンターをしている（特例）

血の繋がった家族は無し

レオ・ガーラント

武器 大剣

HR1 16歳

髪 金髪のレウスレイヤー

瞳 琥珀

備考

ゼロとは幼なじみ

性格は明るく元気で誰とでも友達になれる

ハンター初心者

リオ・レアノート

武器 ライトボウガン&双剣

HR1 15歳

髪 サファイアブルー

瞳 翡翠

備考

明るくやさしい性格（ちょっと天然なところあり）

実はゼロのことが好き

ハンター初心者

ちなみに村長の孫娘

ゼオ・レアノート

村長 88歳

髪 白髪

瞳 琥珀

HR 元10（この村の英雄）

備考

ゼロの善き理解者であり育ての親でもある

昔は銀のリオレウスを倒し数々の伝説を創ったことからドルイドの英雄と称えられている

備考

この世界では ハンターランク HRは最高10

『人物紹介 1』(後書き)

誤字脱字要望があれば感想にお願いします。

-

『始まり』（前書き）

ここは・・・

ドルイドの村・・・

豊かな森林に囲まれた広く少し大きな村・・・

今回の物語は此処から始まる

-

『始まり』

チュンチュン・・・

小鳥が囀る爽やかな朝・・・

しかし物語は騒がしく始まりを告げる

「おきて・・・レオ・・・起きなさい！」

レオと呼ばれた少年はすやすやと気持ち良さそうに眠っている

「グゥ・・・あと5時間・・・」

「お約束ギャグ！！ もぐ ころなったら」

少女は手にもっていた灰色の塊を上投げてすぐにドアの向うで耳を塞ぎそして

キイイインツ！！

突然部屋の中に凄まじい破裂音が響き渡る

「ギイアアアア！！！」

コロコロ！！！！

ドゥシ〜ン!!

少年はベッドから転げ落ちる

「おはよう」

「・・・(気絶中) ハッ! リオ〜なにも音爆弾を使わなくてもいいだろ〜」

「今日は大切な日でしょう もう! お爺ちゃんが待ってるよ!!」

「ヤバッ!!!」

二人は駆け足で大きなドラグライトの原石のある広場へと駆けて行く

「遅いのう」

「お爺ちゃん!!」

「おお〜やつと来たか」

「レオがなかなか起きなくて・・・」

「まあ〜いいじゃろ 今日でレオは16歳リオは15歳二人とももうハンターになってもよい年頃じゃ」

「クエストは!?!」

「早!!! ま・・・まあ〜待ちなさいもう少ししたらゼロが村に着するから」

「「えッ！ ゼロ（君）が帰ってくるの！！」」

「うむ！ あやつにおぬし達のコーチを頼んだのじゃ！！」

「はやく帰ってこないかな」

「……（ちょっと複雑）」

そんなほのぼのとした時間だったが

「た……大変だ〜！！」

突然現れた中年男性によってそれは崩れ去る

「なんじゃ騒々しい」

「キノコを採りに森に入ったら見たことの無い紫のイヤンクックがいたんです！！」

「なんじゃと！！ そいつはイヤンガルガ！！」

「「イヤンガルガ？」」

「イヤンクックよりも凶暴ではるかに強いモンスターじゃ！！」

「だ……だれかが戦ってるぞ〜！！」

「リオ！！」

「うんー!!」

リオとレオは見張り台に急いで登った

突如凄まじい騒音が辺りに響き渡る

「ギィイヤアアアッ!!」

そこには黒狼鳥と黒いマントのような物を被った男が戦っていた

「す・・・凄い!!」

その男は黒く光る太刀を振るい戦っていた

「くらえッ!!」

男の身体から紅いオーラのような物が現れ太刀に集まり刃に紅い光が宿る

「ハアッ!!」

紅い光を宿した黒い刃が振り下ろされる

ザシュ!!

紅いオーラを纏った刃が黒狼鳥の首を切り裂き首が中を舞った

-

『始まり』(後書き)

一つの戦いが終わり・・・

辺りは静けさを取り戻した

-

『再会』(前書き)

「久しぶりに見た貴方の背中には以前まえよりも大きく見えた」

## 『再会』

黒マントの男は門を通って村へ入りそして広場にいる村長に話しかけた

ゼロ「お久しぶりです」

ゼオ「おお〜ゼロよ久しぶいな」

リオ・レオ「えッ！ ゼロ（君）！？」

ゼロ「久しぶりだね」

パサッ！

黒いマントを脱ぎ銀色の兜を外すと長く綺麗な銀髪とまだ幼さが残るものの綺麗に整った顔が見えた

リオ「ゼロ君久しぶり〜」

リオはゼロに抱きつく

レオ「う・・・羨ましい〜」

ゼロ「久しぶりだね二人とも あっ！ ゼオ爺ちゃん前に手紙で知らせた飛竜のことなんだけど・・・」

ゼオ「そう言えば・・・手紙に書いてあったな二匹の飛竜の子供を

飼っていると……」

ゼロ「うん」

ゼロはもっていた角笛を空に向かって吹いた

ブオオオン！！

角笛の独特な音が辺りに響き渡り

そして次の瞬間空から小さな金と銀の幼竜が現れた

「「ギャウ」」

リオ・レオ「えッ！！ な・何！？」

ゼロ「ま……まさか希少種の幼竜か！？」

リオ・レオ「希少種？」

ゼロ「ワシが昔倒した銀色のリオレウスのことじゃ」

リオ・レオ「ええッ！！」

ゼロ「まさかリオレイアの方までいるとは……」

リオ「かわいい〜」

二匹の幼竜はリオにじゃれていた

??・??「ギャウ〜」

ゼロ「銀の方がソルで金の方がルナって言うんだ」

ゼオ「幼竜の頃から人に慣らしておけば命令せん限りは人は襲わんと言われとるし・・・まあ〜いいじゃろ」

レオ「なあ〜 ゼロまさかお前本当に倒したのか？銀のリオレウス？」

ゼロ「ああオレはこの二匹の親の命を奪ったんだ・・・」

レオ「あッ！ そう言えば爺さんクエストは!？」

ゼオ「おお〜 コロツと忘れとったわ ゼロよ二人を頼んだぞ」

ゼロ「ハイッ!〜!」

ゼオ「これはワシからのせんべつじゃ」

そう言うとゼオはお金の入った袋とギルドカードをレオとリオに渡

し二人はそれを受け取った

リオ・レオ「ありがとう」

ゼロ「じゃあ鍛冶屋に行こう」

ゼロ達は加治屋へと向かう

鍛冶屋の親方「よお！！　ゼロ久しぶりだなー！！　今日は何の用だ」

ゼロ「二人の防具と武器が欲しいんだけど」

親方「おお！！　任せな　オイ！　レオこれもってみな」

親方はレオに大剣リュウノアギトを渡した

レオ「すごい！！」

親方「振れるか？」

ブオンツ！！

レオはアギトを片手で軽々と振った

親方「よし！　そいつはやるよもっていきな」

レオ「えッ！　いいのー！！」

親方「ああ 俺からの誕生日プレゼントだ」

レオ「あっ！ ありがとう親方！！」

親方「さて次はリオちゃんだな・・・これはどうだ」

親方はリオに深緑に彩られたボウガンを渡した

リオ「これは？」

ゼロ「ヴァルキリーファイア ライトボウガンだよ」

リオ「ええ〜！？ こんな高そうな物いいの！？」

親方「ハッハッハ！ いいんだよもっていきな さて次は防具だな」

ゼロ「あっ！ 親方この素材を使ってくれないか」

ゼロは素材の詰まった袋を差し出した

親方「これは！ リオレウスとリオレイアの素材か！！ これはスゲーのができるぜ！！ よし！ これは明日取りにきな！！」

ゼロ「じゃあ二人ともとりあえずバトルシリーズを買ったら？」

リオ・レオ「バトルシリーズ一式ください！！」

二人はお金を払い装備を整えた

ゼロ「じゃあ行くところか」

リオ「うん!!」

レオ「おうっ!!」

ゼロ「じゃあ親方 明日取りにくるよ」

親方「おうっ！ 任しとけ!!」

ゼロ「さてとまずは採取クエストだな じゃあまずは生肉5個の納品だな」

ゼロ達は馬車に乗り目的地に向かった

馬車の中・・・

リオ「それにしても久しぶりだねゼロ君」

ゼロ「2年ぶりだね」

レオ「そっぴや ソルとルナはどうしたんだ？」

ゼロ「ああ、ゼオ爺ちゃんに預かってもらってるよ」

レオ「あっそう」

おっちゃん「おっいそろそろ着くぞ」

ゼロ「さあ 行くところか」

馬車が目的地に着いた・・・

リオ・レオ「わあ、凄い!!」

目の前に広がる深緑の深き森にリオとレオは目を奪われた

ゼロ「まずは草食竜アプトノスを狩ろう」

ゼロ達はエリア1に向かった

エリア1

ゼロ「まず手本を見せるね」

ゼロは重たい鎧を着けているのにも関わらず軽やかな動きでアプトノスとの距離を詰めそして

ゼロ「ハアアアッ!!」

ザシュツ!!

黒い光を放つ刃でアプトノスを一刀両断にした

アプ「ギイヤアアアッ!!」

リオ・レオ「スゴい!!」

ゼロ「肉は剥ぎ取りナイフでこつ剥ぐんだよ」

ゼロは慣れた手つきでレオとリオに剥ぎ取り方を教えた

ゼロ「さあ、レオやってみなよ」

レオ「おうっ！」

リオ「がんばってね」

レオ「ウオオオオツ！！」

レオはアプトノスに走って近付き渾身の力を込めて大剣を振り下ろす

ブオンツ！！

ズシャアアアツ！！

アプトノスから勢い良く血しぶきがあがった

アプ「ギイヤアアアツ！！」

アプトノスは一撃で絶命した

レオ「・・・」

レオは突然達成感と罪悪感に襲われた

ゼロはレオに近付き子供をなだめる時のように優しく話し掛ける

ゼロ「レオ・・・コレが俺たちハンターの仕事なんだ  
俺たちはモンスターの命を奪い命を紡いでゆく・・・」

そしてモンスターは俺たちの命を奪う・・・

その関係は変わらない・・・

だからこそ今日の事を絶対に忘れるなよ・・・」

レオ「・・・おう・・・」

レオはアプトノスの死体に一礼し剥ぎ取りを行なった

ゼロ「さて、リオ ボウガンの弾をリロードしてアプトノスの頭を  
狙うんだ

「

リオ「了解」

ガシヤツ！！

リオは通常弾Lv1をリロードしてアプトノスの頭に狙いを定めそ  
して

リオ「あつたれ」

ダンッ！！ ダンッ！！ ダンッ！！

リオはほぼ同時に数発の弾丸をアプトノスに撃ちこむ

ダンッ！！　ダンッ！！　ダンッ！！

アプ「ギイヤアアッ！！」

弾丸は見事に命中しアプトノスは苦痛で叫びをあげる

アプ「ギヤアアッ！！」

アプトノスは頭から血を流しながら逃げよつとするが

リオ「逃がさない！！」

逃げるアプトノスに向かってリオは弾丸を撃ち込んだ

アプ「ギイヤアア！！」

弾丸は急所に当たりアプトノスは絶命した

リオ「ごめんね・・・」

リオはアプトノスに一礼し剥ぎ取りを行なった

ゼロ「さて次はこんがり肉の作り方だけどこれは結構簡単だよ

まずは肉焼きセットに肉をセットして音楽が聞こえるからそれに従  
うんだ」

リオ・レオ「音楽！？」

ゼロ「まあ やってみれば分かるよ」

リオとレオは肉焼きセットに肉をセットし肉焼き始めた次の瞬間

〽  
〽  
〽

突然どこからか音楽が聞こえてきた

リオ・レオ「ホントに聞こえた〜!？」

ゼロ「肉に色が着いたら出来上がりだよ」

リオ・レオ「今だ!!」

肉が焼けた次の瞬間

肉焼きの精霊「上手に焼きました〜」

突然空から謎の音が聞こえた

リオ・レオ「え〜!! なに今の声は!？」

ゼロ「さてあとは薬草でも探そうか」

ゼロは何事も無かったかのようなそぶりをし次のエリアへと進む

リオ・レオ「無視しないで〜!!」

リオとリオはゼロの後を追いついて

ゼロ達はエリア3へと向かった

『再会』（後書き）

更新が遅くなってしまいました。すみません。

極力速く書けるようにがんばります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9430m/>

---

モンスターハンター 『時を超えし者』 紡がれる伝説

2011年10月6日21時49分発行